

環境まちづくりNPO法人ミレニアムシティの実績概要

環境まちづくりNPO法人ミレニアムシティは2000年に東京都の認定を受けて活動を開始した。目的は2つあり、ひとつは地球環境の蘇生、もうひとつは人と人のつながりを取り戻すことである。現在までに約200回の正規のワークショップと様々なイベントや有機農業体験プログラムも行ってきた。現在までの参加者の累計は5000人以上である。普及啓蒙活動も多岐にわたり、たとえば講演会は70回以上開催し、国や公共団体や大学や企業等に対して環境問題や社会問題を解決する様々な取り組みや方法を伝えてきた。国土交通省からのオファーで研究会のメンバーとして約半年間にわたって未来の日本のビジョンについて提案した実績もある。昨年国交省が発表した国土のグランドデザイン2050のキーワードである「コンパクト+ネットワーク」という考え方は、まさにミレニアムシティが15年前から声高に提示してきた5つのキーワードに含まれているビジョンである。その結果、現在では会員数約300世帯400人となり、世界中のメディアにも100回以上も紹介されてきた実績をもつ。受賞も様々にしている。特筆すべきイベントとしては、2009年に行われた「未来ビレッジサミット」がある。約10団体のNPOを連携させ、将来ビジョンを明確にできた。ゲストとしてスリランカからサルボダヤ運動代表のリトルガンジーと呼ばれるA・Tアリヤラトネ氏等偉大な実績をもつ方々を招いて講演頂けた。環境省、農水省、国交省の後援もいただけ、地球環境基金も適用された。

ミレニアムシティの最大の特徴は、様々なワークショップ等のイベントを通して環境問題や現代の様々な社会問題を分析し、かつその解決策を提案し、さらにそれに基づいて具体的にエコビレッジを各地に建設、運営しているということである。(現在では千葉に2ヶ所、山梨に1ヶ所、東京に1ヶ所)ハードとソフトにわたる解決策は、ワークショップでの「夢と未来を語る会」をくり返し行うことから多くのメンバーやゲストの意見を統合したかたちでの解決策の具体的提案である。これにより、実際の施設経営、運営や居住や使用を通しての新しいコミュニティ像と都市像をつくり出し、かつ検証を行い続けることで未来に先駆けとなるネットワーク・エコビレッジのモデルをつくり出している。コミュニティ通貨の「ミレ」も発行して「お金」に使われない社会への試行も続けている。

2014年には、原発事故に対する予防措置的な新たな防災エコタウンモデルの「ネットワーク・モバイル・エコビレッジ」を富士山ミレニアムシティ第I期として世に出現させた。

さらに2015年には、都市の中の都市モデルで、既存市街地活性化モデルとなる上石神井ミレニアムシティ第I期を完成し、運営を開始した。加えて、その1～2階にはオーガニックコミュニティカフェとしてYume Mirai Caféを直営店としてオープンし、新しいコミュニティモデルの創作も開始した。

新年の抱負

ミレニアムシティは、今年活動開始から17年目に入ります。

設立当初の2つの目的は、地球環境の蘇生と人と人とのつながりづくりでした。

地球環境破壊問題や、多くの社会問題を根本的に解決すべく、解決策の実例提示として、現在までにネットワーク・モバイル・エコビレッジをハードとソフトの両面をセットにして計5ヶ所に、建設、運営をしてきました。講演会は70回以上、ワークショップ開催は、番外編も含めると250回以上、世界中のメディアにも100回以上紹介されてきました。現在の会員数は約300世帯400名にまで広がっています。

現在と未来の地球世界のビジョンは、ますます、ミレニアムシティの目的に近づきつつあり、また、それをより必要としているように見えます。世界中の問題がよりいっそう深刻さを増すように見える一方で、実は水面下では、それらの問題を根本的に解決する条件も整いつつあるからです。精神分析学の父フロイトは、1932年時点で「人はなぜ戦争をするのか」というアインシュタインにあてた書簡の中で、人類がやがて、戦争をしなくなる時がくるための条件提示をして、その可能性を示しています。それから80年余りの時を経て、世界は、その条件

をいよいよ整えつつあるのです。人類の恒久平和と恒久幸福という人類の究極の目標、それは決してたどりつけないユートピアと思われていた目標に、人類はたどりつけるかもしれないのです。

それはもちろん、ミレニアムシティとしても究極の目標、目的でもあります。そして、いままでと、今後のミレニアムシティの活動は、このビジョンの延長線に全く一致しているともいえるのではないのでしょうか。

そこで、ミレニアムシティとして 2050 年までに達成しているコミットメントとして、「世界平和それも恒久平和と、すべての人々の恒久幸福を達成している」という目標と目的を加えたいと思います。そこからバックキャスティングをしてきて、今年は、何をするかを考えていきたいと思います。ひとつは、なぜ以上のようにいえるのか、その理由や可能性について現在、ミレニアムシティの本を執筆中で、今年の 7 月頃までに、出版する予定です。さらにそれを教科書のひとつにして、(仮称) ミレニアムシティ大学の講座を開催しようと思っていますので乞うご期待！その内容も皆さんとつくっていただければと思います。ミレニアムシティの場で皆さんが望む活動をどしどし、創作して下さい。夢と未来を語る会は、そのためにも大変有効な場となるでしょう。

ご一緒に世界と日本を救っていきましょう！

新年のミレニアムシティワークショップの開催趣旨

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災と福島第 1 原発事故はそれまでの環境問題や社会問題の解決策のあり方を根本的に覆すほどの出来事であった。

特に、原発事故では放射能汚染により国土の一部が半永久的に失われてしまったのだ。

国土だけでなく、そこに生活していた人々やコミュニティや職業やその未来までも一瞬にして奪われ、現在も放射能が大量に漏れ出すなど解決の糸口さえつかめていないことは周知の事実である。しかも未だに全国に約 50 基もの原発をかかえ、大地震の予告がされることによって日本全体が戦々恐々とした状況に陥ってしまっている。しかしながら、このような状況にもかかわらず政府は原発再稼働を始めてしまった。

(その陰では太陽光発電普及を大幅に抑制する措置がとられた)

加えて明らかに憲法違反である集団的自衛権の行使容認を求めるいわゆる「戦争法案」を可決成立させてしまった。原発や武器の輸出を行うつもりということだ。戦争は最大の環境破壊である。他方では新国立競技場やオリンピックのエンブレムの白紙撤回等々いずれも、世界に顔向けできないような失態が続いている。

21 世紀という環境の世紀になったにもかかわらず、明らかに時代に逆行しているのが現在の日本ではないだろうか？

今年 of ミレニアムシティワークショップの開催趣旨は、このような日本の現状に対する解決策を導きだし、実際に行動をおこしていくということを前提に新しい時代を担う青年のめざめを期待する、そのきっかけづくりを様々に行っていくということがメインの趣旨である。

そして、そのような青年達と共にミレニアムシティの現在までの解決策の創出のノウハウやあり方、そのための場づくりの方法などを共有することで実効性の高い将来のビジョンをともに作り出し、未来の望ましい持続可能調和社会のモデルをつくっていくことを目指すものである。

それには 1 回や 2 回の単発のイベントを行うというよりも、継続的なプログラムによる段階的な達成をイメージしたほうが良いと考え、概ね数週間から数か月間隔で継続的に大小多様なイベントを行い、3～5 年以内を目途に、相当な計りえる成果につなげるということを意図している。ポイントは青年自らによる自発的な目覚めと行動につなげる場づくりを行い、やがて目覚めた青年達による自主的な運営の場としていくことを意図している。さらにそのプロセス自体を老若男女による相互教育と生きがい創出という社会モデルとしていくことにある。そのための創作イベントが「千年青年のめざめ」という位置づけである。

場所は最先端の環境建築でもある各地のミレニアムシティで行い、参加者全員による問題意識を相互に出しあい「夢と未来を語る会」の中で具体的なビジョンを行うかたちで進めていく。